



NO.399

R2年10月1日

発行

〒869-1217

熊本県菊池郡

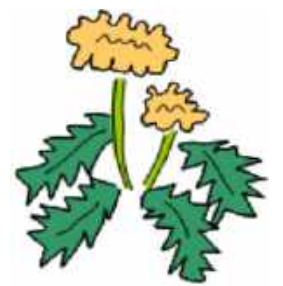
大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



「偲ぶ」

施設長 木下昭二

ろうかと思えますが、墓前で手を合掌させられなくても、大切な人やお世話になった人を思い

通勤時や、利用者さんと一緒に施設の周辺を散歩していると、ひと際目立つ赤色の花がいやおうなしに目に飛び込んできます。秋へと移り変わっていく季節を告げてくれる彼岸花が、その赤色の主です。一時期は赤以外の色も見かけていましたが、個人的には赤色の彼岸花が小さい時から馴染みがあつて一番落ち着きます。私達人間の世界では、

今年も、父が植えてくれた彼岸花が庭に咲きました。今でも「ちゃんと温かく見守ってくれているんだなあ」と思いつつ、薄黄色の彼岸花にそっと手を合掌させました。私好みの色ではないところに、地味で無骨だった父の存在が感じられます。来月には、もう七回忌。大好きだったお酒でも手向けて偲びたいと思います。

「開園記念祭について」

実行委員 小城 崇

今年度の開園記念祭は、外部の皆さまにご来園頂く形での開催は中止とさせて頂き、感染症対策を十分に行った上で園内の利用者の皆さまに、楽しんで頂く形での開催となります。

三気の里では毎年11月に地域の皆さまにお越し頂き、私たちの三気の里のことを知って頂き、また、地域の皆さまへの感謝の思いを込めて、開園記念祭を開催させて頂いています。多くの地域の皆さまのご協力・ご理解の下、私たちも皆さまに楽しんで頂けるよう、努めてきました。

しかしながら、現在も全国的に広がりが確認されています。新型コロナウイルスの影響から、今年度は地域の皆さまにお越し頂いての開催が非常に困難な状況となりました。現在の感染の

状況、これからインフルエンザ等の別の感染症の予防にも努めなければならぬ季節となること、より一層の感染予防対策が必要となってくることを鑑みますと、「密」の状況・状態を避けて、感染の予防に努めることが最優先事項であると考えます。楽しみにして頂いていた地域の皆さまがご来場できないことと、残念に思われることと思いますが、何卒ご理解の程、宜しくお願い致します。今年は様々なイベントや行事等が、今まで通りにはならない状況が続いております。そのことで、楽しみにされていた皆さまにとっては、見通しが立たない状況が現在もなお見られています。

そういった状況に終止符が打たれ、来年度は今までのように、地域の皆さまにお越し頂き、楽しんで頂ける開園記念祭が開催できるよう、一日も早く新型コロナウイルスの感染が収束し、多くの皆さまにお逢いできることを、開園祭実行委員ならびにスタッフ一同楽しみに致しております。

自然界ではいつもの時間が流れ、いつものように花を咲かせて、一喜一憂している人間様を優しく包み込むように和ませてくれている事に、自然界の偉大さを改めて感じていきます。コロナの影響で里帰りもままならず、お墓参りも出来ないでいる方もあ





10月



クラブ活動

クラブ活動は、運動、競技スポーツ、ストレッチ、音楽、創作活動等を通して、心身共に健康維持を図る。また、地域行事やスポーツ大会への参加に繋げていくをコンセプトに活動しています。運動、競技スポーツでは各個人の体力等に考慮しながら散歩、マット運動等を行い、体力や筋力の維持。ストレッチでは、色々な姿勢変換で伸ばす、ねじる、揺らす等の動きの中で、身体と心を柔軟にし、身体のバランスの向上を図る。音楽、創作活動においては、音楽を通してリラックスできる時間や活動を提供する。楽器演奏、合唱を通して、達成感や音楽スキルの向上を図る。創作活動では折り紙、貼り絵、塗り絵などを通して、個々の活動能力の向上に努めています。現在、コロナウイルスの影響で地域行事や、スポーツ大会への参加は出来ませんが、こういう状況だからこそ、心身ともに充実した活動が必要だと思っています。個々の目標に沿った活動を提供できるよう努めていきたいと思っています。

リーダー 久米 善久

環境美化係

今年度も基本方針でもある「快適な生活の保障」を念頭に置き、常日頃から施設内の環境整備を行っています。特に施設の顔でもある構内の除草作業を徹底しています。利用者の方々が気持ち良く過ごせるよう施設内の景観を整え、また安心して移動出来るよう環境整備に努めています。建物内に関しては、定期的にフィルター清掃を行ったり、蜘蛛の巣などを取り除く作業をスタッフ一同で取り組んでいます。また、今年は新型コロナウイルスの影響もあり、ワックス業者の手配を行っていません。その為、普段の清掃に一層力を入れて掃除を行っている現状です。更に、環境美化係のスタッフだけでなく他のスタッフの方々と普段のコミュニケーションを通し、整備が行き届いていない箇所などは早急にスタッフ間での割り振りをし、令和2年度の環境整備を行っています。施設内の環境の不備にいち早く気付いて対処することと、利用者の方々への安心・安全を担保する支援は同じではないかと捉えています。その為、今後も施設内の環境整備を行っていくと共に利用者の方々の支援にもより一層の力を入れていきたいと考えています。

支援員 松村 雄一

自治会

今年度は、コロナの影響で自治会としての活動がなかなかできていませんでした。そこで、自治会で会議を行い、今後の活動をどうしていくか話し合を行いました。そこで出たのは、「今までとは違うことがしたい」という意見でした。そこで、私達の得意分野は何だろうと話し合ったところ、「折り紙です」と役員の方のMさん。9月の花はコスモスということで、コスモスを折り紙で作って、応援メッセージを作成することになりました。応援メッセージは、どの様な言葉にするかを考えた時に、様々な意見がでましたが、自治会会長のFさんが「コロナでみんな我慢していることが多いと思う」とのこと、そして、「(コロナに負けない!!)助け合いながら、皆で頑張りよう!!」と言うメッセージに決定しました。そして、「この言葉は太文字がいいのではないか」「この言葉は、緑色がいい」「ここに小さいコスモスが欲しい」等、話し合いながら進められていました。自治会メンバーの想いが三気の里の利用者さんや自粛生活を余儀なくされている方々に少しでも伝わりますように!!

支援員 元杉 朋世

広報・IT係

広報・IT係としての一番の役割はこの機関紙『たんぽぽ』を発行することです。今年度より新しい編集ソフトを導入しました。操作に右往左往しながらも園内での利用者さんの生活や様々な活動報告をわかりやすく伝えることができるよう、係一同努力をし、毎月の発行に向けて取り組んでいます。また、今年度より写真を多く取り入れ、より伝わりやすい記事構成となるよう意識して作成しています。このコロナ禍で今までのように家族団欒の時間が取れない方々も多くいらっしゃいますので、スタッフの書く文章だけではなく写真からも利用者さんの活動やご様子を見て安心して頂きたいと思えます。

ご家族の皆様だけでなく、定期的にボランティアに来て頂いていた方、施設に興味を持って頂いた方も来園して頂くことが難しい状況です。三気の里全スタッフで制作し発行を続けているこの機関紙『たんぽぽ』を通して、施設内の様子や利用者さんの笑顔をお届けできればと考えています。事態が落ち着き、また会えるその時まで、利用者の方々はもちろんですが、ご家族の皆様、三気の里に関わっておられる全ての方々が健康であることを願います。

支援員 金田 紘和

BeTREE

就労継続支援B型事業所では、感染症対策をしながら利用者の方々の支援を行う方法の1つに「在宅支援」があり、国や県も感染拡大防止のために現在広く推奨されています。

BeTREEでも、個々に応じて作業量や内容の調整、その方の生活スタイルに合わせて電話での相談、アドバイス等自宅にいながら活動できる支援を行いました。

いつもは送迎を利用し、BeTREEに通われているMさん。ご家族の都合で2週間程自宅にて活動をされることになりました。その間、電話にて様子を確認していたのですが、在宅支援の一環でMさんからBeTREEに電話をかけてもらうことを提案しました。今まで電話を自分から掛けたことがなかったMさんですが、お母様と一緒に電話をかける練習を行っていただきました。最初はこちらからの質問に対し、分からなくなったらお母様に代わられていましたが、何度も練習を重ねていくうちに、自宅での出来事や頑張ったことを報告して下さるようになりました。スムーズな電話の対応が出来るまでには、まだまだ時間がかかりますが、利用者さんの出来ることが増えていくことに嬉しさを感じました。

このようなことを通して、限られた環境の中でも、利用者さんの出来ることを少しずつ増やしていけるよう常に考えて支援していきたいと思えます。

支援員 鶴 雅美

GHバックアップ

GHバックアップでは、地域交流のひとつとして地区の区役に参加させて頂いています。新(あらた)、一(はじめ)、ひだまりの各GHからスタッフが1人出るかたちで3人のスタッフが参加しています。今回は9月13日(日)に行われています。朝に集まり、女性は芝桜の草むしりと神社の清掃を行っています。男性は草刈り機を使って、GH前の草刈りを行っています。今回は、三気の里の散歩コースを中心に行って欲しいとのことだったので、GH前を中心に行っています。女性の方も地域の方と話をしながら作業を行っていました。区役などに参加することで地域との交流を図り関係を作っていくことが大事だと思います。今後も、地区の行事等にも積極的に参加していきたいと思えます

支援員 中村 圭助



研修課

業務課長 松本慎太郎

研修課は、三気の里の基本方針の一つである「支援者の資質向上」の実現を目指すための課になります。名前の通り、研修全般に関する業務を取り扱っているのですが、具体的には、支援技術、人権、危機管理など施設職員として必要な知識、技術の獲得、向上のために内部研修の企画を行っています。外部講師を呼ぶこともありますが、職員が講師になり教える側として向上できる機会も設けています。外部の研修会にも参加を促しており、研修の受講の啓発や業務を取り計らうこともしています。外部でしか学べないこともあるため、積極的に参加できるようにしています。また、福祉関係者、家族、地域の方に、福祉全般の知識と理解を深めていくことを目的に講演会を毎年実施しています。毎年実施するようになって、今年で8回目になるのですが、今年はどうしたものかと模索中です。先に述べたように「支援者の資質向上」のため、今後も研修課が率先して実践していければと思います。

療育課

療育課長 岩田 幸児

今年度の新たな取り組みとして、三気の里の嘱託医である「くまもと発育クリニック」の岡田稔久先生による勉強会を実施しています。コロナ禍において、様々な研修会や講演会の実施が難しくなっている中、私たち支援員にとっては大変貴重な時間となっています。入職から5年目までの職員を対象に、利用者の方々と関わるうえで、「先ずは利用者を知ること、利用者を知ること」は、発達のことを知ることになる。利用者一人ひとりの特性を知ること。そして、利用者の方のことを観察し、行動を分析、支援の計画を立て、実行する。この観察←分析←計画←実行を繰り返す、あきらめずに支援し続けることが大切になる」等、支援の基礎であり、支援員としての礎となる考え方についてアドバイスをいただいています。勉強会で学んだことを実践し、自らの支援を振り返り、さらに次の支援に活かしていけるよう取り組んでいきたいと思っています。

災害派遣

リーダー 森田 康之

熊本県社会福祉法人経営者協議会の要請により、「令和2年7月豪雨」で被災された方々が避難されている福祉避難所に災害ボランティア（生活支援、生活介護）として活動しました。そこで感じたことをご報告いたします。

私が配属されたのは被災地のひとつ人吉市から車で30分ほど離れたあさぎり町にある老人ホームでした。施設のワンフロアを福祉避難所として開設しており、そこに間仕切りをして8世帯10名の方が生活されていました。いずれの方々も球磨村で被災され、地元の消防団や救助ヘリによって救助された方々です。

現地に入ったのは災害発生から2か月が経過した9月でした。避難所は罹災証明書の申請や村役場、ケースワーカーの方々の出入りなど生活再建に向けての動きが本格化しており、様々な選択肢の中から、これまでの生活に近づける為の選択をされています。皆さんが全力でご自身の将来を考えていただけるように、生活の基盤となる食事や

入浴、余暇などのサポートをさせて頂きました。

避難された方の付き添いで数時間程、球磨村を訪ねたのですが、未だに流木が民家に覆いかぶさったり、瓦礫が道を塞いだりと災害から2カ月経ったとは思えない景色が広がっていました。人気がない中に球磨川のせせらぎだけが聞こえる静まり返った集落。4年前に熊本地震を経験した私でもその光景に言葉を失ってしまいました。

未だに明確な再建の見通しが立たない中、不安な生活をされている方々がいいます。メディアで報道されることが徐々に減っています。順調に復興しているとは言い難い現状があります。自分にできることを見極めながら、今後も継続的に支援をしていきたいと感じました。

1日も早い健やかな生活の実現と平穏な日常が戻りますことを心よりお祈り申し上げます。



療育雑記

「気になってしょうがない」

主任支援員 本田 誠

誰にでも「気になる」もの、こと、人などが存在します。今回は、利用者さんの「気になってしょうがない」から学んだことを紹介したいと思います。

Aさんは、自宅から三気の里に通っている方です。他者との関わりに興味を持ち、作業や運動、余暇時間での関わりを通して、素敵な笑顔を見せてくれます。また、作業能力も高く、持続力もある方です。そんなAさんにとって、「気になる」ものは、床や地面に落ちている埃や虫、箱や壁に貼られたシールの存在です。一度気になり始めると、先に紹介した長所が全て影を潜める程に「気になってしょうがない」状態に陥り、「ゴミ」と発し破棄せずにはいられます。スタッフが先に拾うなど、行動を起こさずに済むよう支援しましたが、今度はゴミ箱やスタッフのポケットの中身が気にな

なり、切り替わることはありません。本人にとって、ゴミ箱の捉え方が、ゴミを捨てる場所ではなく、気になるものの集まりでした。最終的には、手段を選ばず、対象物に突進し、目の前から消去する目的で、「食べる」という命を危惧する行為にエスカレートします。危険な状態であった為、両親にも会議に参加して頂き、自宅、三気の里での現状や支援の共有を図りました。最近の自宅での様子として、兄弟間にトラブルが発生していること、過食であること、そして睡眠がとれていないことが挙がってきました。また、コロナウイルスの影響による利用制限を受けて、利用状況が変化したことも状態の悪化に繋がったとの見解でした。

今後の対応として、荒々しい行動のみに着目するのではなく、生活のリズムを整えること、環境調整、医療機関との連携を軸に、支援を再スタートしました。現在、急激な変化ではありませんが、「気になってしょうがない」から、「気になる」くらいに意識、行動が変容していま

す。他者との関わりにおいても、単一で一方的な要求から、話を聞くこと、次の日課の確認など、会話のレパートリーも増え、本来の姿を取り戻しつつあります。また、保護者との引き継ぎやスタッフ間の会話にも自然と変化が見られ始めました。以前は、荒々しい行動の有無が中心の報告、確認でしたが、現在では自宅での様子（睡眠、排泄、活動、トラブル）に加えて、笑顔の有無など、Aさんの細かい様子まで引継ぎが行われています。今回の関わりを通して、Aさんの荒々しい行動に対して、支援者側が「気になる」から「気になってしょうがない」にいつの間にか変化しており、結果、Aさん自身も「気になってしょうがない」から抜け出せない状態に陥っていたのではないかと捉えています。また、支援していく上で、一つの行動のみに着目するのではなく、根底にあるさまざまな要因に着目し、生活全般を支援することで、結果、「気になってしょうがない」という行動へのアプローチに繋がることを再確認することができました。

相談

「子どもたちを見守る、

事業所さんの頑張り」

相談支援専門員 野口 公美

昨年度末より新型コロナウイルス感染症が流行し、新学期早々、学校が休校となりました。進級、入学し「友達たくさんつくろう」と思っていた皆さんも多かったことではないでしょうか？

傍らで子どもたちの居場所や働く保護者さんの応援として営業された放課後等デイサービスさんがありました。受け入れ時の検温や体調確認、療育室の換気、送り出し後の消毒、翌日の準備とこれまで以上の気配りや手間が増えご苦労があること推測いたします。

コロナ感染症に対する不安は今も継続しています。学校が始まり、「学校は楽しい。」と話してくれるお子さんがおられました。新しい生活が始まっていることを感じる初秋の頃です。元気な子どもさんの声に励まされています。

10月スケジュール

三気の里
 02日(金) 訪問理容サービス
 お笑いライブ鑑賞
 03日(土) 4R白川
 06日(火) 嘱託医来診
 09日(金) 訪問理容サービス
 10日(土) 運動会
 12日(月) 訪問理容サービス
 大津町がん検診(男性)

15日(木) 大津町がん検診(男性)、誕生会
 23日(金) 訪問理容サービス
 24日(土) 採用選考
 毎週木曜日 1.8.15.22.29
 ローソン移動販売
 BeTREE
 <営業時間>8:00~18:00
 詳しくはインスタで



betree314

三気の里家族会様
 福田憲子様
 魚谷秀文様
 赤星央子様
 渡邊京子様
 藤井法仁様
 森川琇介様
 金森保様
 角田幸様
 井上ちえ子様
 田中満子様
 井上律子様
 中村秀隆様

【物品】

三気の里家族会様
 岡崎範子様
 角田尚太様
 角田美知子様
 松永広美様

【寄付】

寄付ありがとうございます
 ございました



【陣内食堂】

中島佐代様
 春野宗敏様
 清藤正弘様
 田中基幹様
 菊池フジ子様

後援会ありがとうございます
 ございました



【GH 避難訓練】

